

平成 29 年度三重大学国際交流事業実施報告書 (学内版)

1. 申請部局

申請学部・研究科名： 教育学部

事業担当者の職・氏名： 後藤太一郎

内線電話番号： 9 2 6 0

電子メール： goto@edu.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称 (20 字以内, 別に副題を付けても良い)

オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施

3. 事業内容の別 (該当の□を■に変更)

教職員, 学生の海外派遣 (学会やシンポジウム等の出席は除く)

海外交流機関等からの教職員, 学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

## 4. 事業の取組結果

以下の事項について記述してください。ページ数は問いません。

## (1) 事業概要（簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください）

海外の教育制度や教育現場の視察は、教員を目指す学生に、自国の教育課題の相対化を通じて視野を拡大する機会となるとともに、主体的学習力の向上や、教育に対するモチベーションを飛躍的に高める機会ともなる。また、グローバル化時代の今日、教員養成系においては海外の教育現場と日本の教育現場の比較体験や、学校教育と教員をめぐる諸課題に対する国際的な視野を広げ、教育のあり方や新しい教師像を考える機会となるような国際交流事業が望まれる。

本事業は、平成 23 年度より実施しているニュージーランドにおける教育研修プログラムを継続するものである。このプログラムは、ニュージーランドにおける教育制度に関する講義、オークランド大学近隣の幼小中学校園の学校現場の参観と省察、およびオークランド大学の授業参加からなる。本年度は教育研修の第 7 回目を実施した。

## (2) 事業の背景・これまでの実績

ニュージーランドでは急速に教育改革が進み、自立的な学校経営が推進され、教員同士の協同的な職能開発が行われている。教員を目指す学生がこのような教育現場に触れることで、教員になるためのモチベーションを高めると考え、オークランド大学教育学部に海外教育研修プログラム実施に関して交渉し、23 年度に第 1 回目を実施することができた。これまでの参加者は以下の通りである。

年度	参加学生						引率教員
	合計数	学部2年	学部4年	大学院	男	女	
23年	9	2	6	1	2	7	3
24年	10	8	2	0	3	7	3
25年	10	8	2	0	2	8	5
26年	14	8	5	1	3	11	5
27年	12	7	4	1	5	7	4
28年	11	9	2	0	3	8	4
29年	16	14	2	0	4	12	5

交流の成果は、教育学部附属教育実践総合センター紀要や国際交流センター紀要に報告した。また、これらの実績から、25 年 8 月には教育学部との間で学部間協定が締結され、28 年 7 月に更新した。

## (3) 事業実施結果

29 年度のオークランド大学教育学部における研修プログラムは以下の通りである。

研修期間は 9 月 9 日（土）～9 月 23 日（土）で、現地には 14 日間滞在した。16 名の学生が参加し、引率には事業担当者である理科教育の後藤太一郎と、学生指導

として英語教育の荒尾浩子、学校教育の佐藤年明、理科教育の國仲寛人、および保健体育教育の後藤洋子があたった。学部授業である「海外教育実地研究」とし、事前指導を4月より5回行い、研修準備を進めるとともに、研修後には省察を行うとともにレポートの提出を行なった。研修では、特別授業として、「ニュージーランドにおける教育事情」、「多文化教育」、「ESL入門」の他、オークランド大学教育学部の授業4時間、そして、幼稚園、小学校、中学校、高校の学校訪問、授業参観、省察を行った。今回も昨年に続き5名の教職員が引率したことから、オークランド大学教員とともに、参加学生に行き届いた指導を行うことができ、学生は研修内容の理解を深めることができた。

	1日目 (土曜)	2日目 (日曜)	3日目 (月曜)	4日目 (火曜)	5日目 (水曜)	6日目 (木曜)	7日目 (金曜)
午前		オークランド到着	歓迎式 NZの教育事情	ESL NZの文化	幼稚園訪問	小学校訪問	オークランド 西海岸等の自然 散策ツアー
午後	出国	ホストファミリー	ESL NZの歴史	学校訪問準備	Mongere Mountain Education Center	NZの歴史	

	8日目 (土曜)	9日目 (日曜)	10日目 (月曜)	11日目 (火曜)	12日目 (水曜)	13日目 (木曜)	14日目 (金曜)	15日目 (土曜)
午前	水族館見学	動物園見学	中学校視察	ESL	高校視察	NZの多文化共生	口頭発表 プログラム評価	オークランド 出発
午後	博物館見学	自由	UAの授業参観	授業検討会 口頭発表準備	UAの授業参観	UAの授業参観	コース修了式 お別れ会	帰国

プログラムでは、学生成果をまとめて最終日に報告会を行い、プログラム修了書を授与された。

なお、今回は日本学生支援機構の海外留学支援制度（短期派遣）に採択されたことから15名が70,000円の補助を受け、残り1名の学生には国際交流助成事業により70,000円の補助を行った。また、国際交流助成事業による180,000万円を5名の引率教員にあてたが、教員一人あたり25万円ほど経費がかかるために、教員個人研究費や科学研究費での出張となった。

#### (4) 事業の意義

学部として学生に多様な海外研修・体験の機会を提供することが、学部の国際交流事業として欠かせない。学生のための海外研修の推進は近年急速に進んでいるが、教員養成学部にもふさわしい、幼小中高すべての校種の教育現場の参観を主体とした英語圏での短期海外研修は本学部では過去に例がない。プログラム内容は、本学部からの提案が基本となっており、オークランド大学教育学部との協力により、完成度の高い研修プログラムを組むことができた。これは本学部の独自の取り組みの結果であり、この種の活動をオークランド大学教育学部と実施している例は、国内の他大学にはない。

最終日には報告会を行うことで、学生は学びを定着することができ、短期間のう

ちに多くのことを学び、教員を目指す上での大きな意識改革となったと言える。学生のための国際化教育が推進される中で、本学部の英語圏での教育研修プログラムの実施制度として継続させることが必要と考えられる。

また、本学の国際交流事業である「外国人教員短期招へいプログラム」によりオークランド大学から講師を招へいすることで、学生はオークランド研修に関心を持ち、参加者希望者は増加している。オークランド大学でも同講師による授業を受けることで、同プログラムの大きな成果となっている。なお、研修の概要と成果は日本教育大学協会研究集会（平成 29 年 10 月 14 日、愛知教育大学）で 2 件発表した。

このように、本事業は学生の資質向上に大きな意義があるばかりでなく、学部としての特色ある海外研修プログラムと位置づけられる。また、将来的には教職大学院の授業としても位置付けることで、現職教員にとっても魅力的なものとなり、大学院生の確保につながることも期待できる。

#### （5）事業の発展性

オークランド大学教育学部からは 30 年度と同様のプログラ実施の受け入れについては承諾を受けており、参加学生の募集も行い、現在までに 10 名の参加が確定している。これまでにオークランド大学を訪問した教育学部教員は 7 名であり、訪問を希望する教員も多い。オークランド大学学部国際交流担当副学部長は毎年三重大学を訪問しており、平成 29 年も 4 月に本学を訪問した。オークランド大学教育学部国際交流担当副学部長は 30 年度も本学に来る予定であり、双方の交流が進んでいる。本プログラムだけでなく、短期外国語研修など、複数の交流プログラムも可能となっている。

#### （6）第 3 期中期目標・中期計画における位置づけ

I-4-（1）-1-1：世界で活躍できるグローバル人材を育成するために、在学中に海外留学や国際会議などで海外へ派遣するための海外渡航支援制度や、ダブルディグリープログラムをはじめとしたアジアを中心とする海外からの留学生受入れプログラムを見直し、海外渡航学生数については入学定員の 20%とし、受入留学生数については第 2 期の平均に比べ 10%増加させる。

に伴う活動。

I-4-（1）-2-1：地域社会からの要望の強い国・地域にある海外の大学との戦略的なパートナーシップを構築するため、国際戦略本部会議を中心に、国際的な教育・研究活動、国際交流事業、附属病院での国際的医療活動などに対して明確な意思を持った方針・戦略を策定する。

#### （7）その他

##### （助成に関する要望事項等）

昨年度と同様に、学部から配分された本事業助成額は少なく、引率教員の自己負担が極めて大きいものとなっています。本プログラムを 7 年間継続できているのは、

引率教員がサポートにあたることで、受け入れ先の負担がないことによります。新規の国際交流事業の開拓も重要ですが、既存のプログラムを維持することは、それ以上に努力が必要となります。JASSO の助成が採択された場合は、学生補助に対する教員の努力を考慮した形で、引率教員への補助を検討していただきたいと思っています。

## 平成 29 年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

### オークランド大学教育学部における教育研修の実施

教育学部（申請代表者・後藤太一郎）

教員を目指す三重大学教育学部生の国際性を育むための教育研修プログラムを、近年、急速に教育改革の進んでいるニュージーランドで実施することを計画し、オークランド大学教育学部の協力を得て実施した。この研修は、ニュージーランドの教育事情に関する講義、オークランド市内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校の授業参観と振り返り、およびオークランド大学教育学部の授業参観からなるもので、今回は第7回目となった。研修期間は現地13日間で、2017年9月9～23日に行い、学生16名が参加し、教職員5名が引率指導した。ニュージーランドにおける自律的な学校経営、教員同士の協働的な職能開発、児童・生徒に応じた指導を直接見聞きすることができた。最終日には学修成果の発表を行い、修了証書を授与された。アンケートから、学生はニュージーランドにおける教育方法・評価に関する理解や、日本における多文化教育のあり方を学び、主体的学習力について向上したと回答していた。本学部において意義のある海外教育実地研究研修と位置づけられる。

平成 29 年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

For the purpose of fostering international minds of the students of Faculty of Education of Mie University, an educational training program was conducted in New Zealand, where education reform is rapidly changing. The program was implemented in collaboration with the Faculty of Education at the University of Auckland (UA), which plays a central role in teacher training in New Zealand. This training program consists of learning about the educational system of New Zealand, classroom visitations of the kindergarten, the elementary school, junior high school, and high school including the review sessions of the visitations, and participation in some classes of the UA. The training period was 13 days during September 9 to 23. Eleven students participated in the program and 5 teachers of Mie University went to support their activity. The students learned about self-directive school management, cooperative professional development between teachers and guidelines to meet individual requirements of students. From the results of a questionnaire about this training, it was found that the students deepened their thoughts about the educational methods in New Zealand and their understandings about evaluation and multicultural education in Japan. In addition, their interest for studying international understanding increased as did their “motivation” and “independent learning abilities”, both of which are educational goals of Mie University. This program is planned to continue indefinitely as an overseas training program in our faculty.